生田第1体育寮　完成　生田第2体育館

機能的な設備でアスリートを支える生田第1体育寮・同第2体育館が完成した。東日本大震災を受け、学生が安心・安全に生活しスポーツに打ち込める環境をと、移転・新築に着手。総合体育館の北側に2棟を集約した。

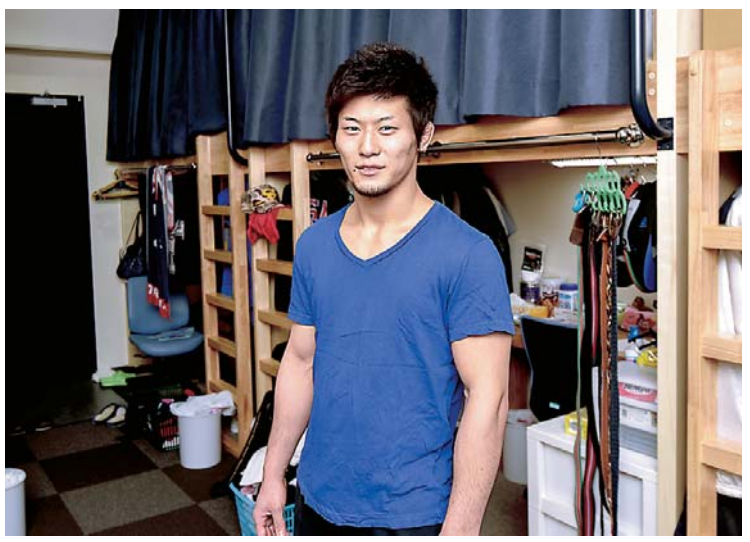
いずれも鉄筋コンクリート造り地上4階建てで、総延べ床面積は4604・48平方㍍。生田第1体育寮（240人収容）にはアイスホッケー部、剣道部、ゴルフ部、柔道部、準硬式野球部、レスリング部、卓球部、バスケットボール部、水泳部（競泳・水球）、フェンシング部の部員が入寮した。

居室は2～4階で、全て4人部屋（計60室）。ベッド下に学習机と収納スペースがあり「自分だけの空間があってほっとできる」「整理整頓しやすい」と好評だ。2015年度の寮長を務めるレスリング部主将の魚住彰吾さん（経済3）は「各部の主将と協力し、きれいに寮を使っていきたい。フロアごとに洗濯機と乾燥機があるのは助かります」と話す。

同第2体育館は吹き抜けの2層構造で、天然木のフローリングが特徴の体育室1とレスリング場としても使われる体育室2から成る。音や衝撃が近隣に響かないように設計され、空調を完備。窓を開けずに使用する。

体育室1、2ともフォームを確認できる大きな鏡張りの壁面を設け、上方には見学者用の観覧スペースをつくった。「申し分のない練習環境で、選手の奮起に期待したい」と石崎徹体育部長（経営学部教授）は力を込める。

落成式（2月6日、同第2体育館）には日髙義博理事長や矢野建一学長、甘竹秀雄校友会長、髙野雅夫育友会長をはじめ関係者約60人が出席。「ここから多くの選手が2020年東京五輪・パラリンピックに向け羽ばたいてほしい」と新たなスポーツの拠点の誕生を祝った。



▶ 第1体育寮の住み心地の良さを話す寮長の魚住さん

▲ レスリング場としても使われる体育室２

「チーム作り」のワークショップ実践

専大附属高で文学部・小峰ゼミ

学びの場を支援し促進する技法（ファシリテーション）を基に、ワークショップの理論と実践を学ぶ小峰直史ゼミ（文学部人文・ジャーナリズム学科）は、専修大学附属高校の土曜講座「チーム作り講座」で、考案したワークショップを繰り広げた。

「チーム作り講座」は、学年、クラスが異なる生徒が集まり、社会で必要なコミュニケーション力の修得を目指す。担当は、専大卒業生で同附属高の地理歴史科（日本史）教諭である杉山比呂之さん（平17文・第17回「がんばれ先生！ 東京新聞教育賞」受賞）。2011年から実施している。

杉山教諭の本学教職課程での恩師が小峰教授。「小峰先生が実施していたワークショップを、ゼミ生と一緒にやってみたい」と小峰ゼミとパートナーシップを結び、共同研究を行ってきた。

ワークショップは1月24と31の2日間、同附属高で行われた。31日には附属高校生28人が参加、小峰ゼミ生9人がデザインした「人間ＢＩＮＧＯ」「一人ひとりのマップ作り」「人間図書館」などのプログラムが次々展開され、会場は笑顔にあふれた。

小峰ゼミの島崎莉子さん（4年次）は「高校生のニーズを把握し、キャリアを考えるワークショップをつくってほしいという依頼に〝高校生に戻って〟考えてみた。やりたいことを見つけるには、まず自分を知ることが必要。それを軸足にして1年間取り組んできた」と話す。中村俊樹さん（4年次）は「ゼミ活動の集大成になった」と晴れ晴れとした表情だった。

参加した附属高校生からは「楽しかった」「チームの中で自分を生かすことの大切さが、少しだけど分かった」という感想が寄せられた。

プログラムを終えたあと後輩たちの進路相談に応じる姿もあり、ゼミ生たちの奮闘を小峰教授が傍らで見守っていた。

参加したほかの小峰ゼミ生は次の通り＝敬称略。松田周平（4年次）、杉田慈央、天満亜紀、森下真穂、森田清香、上出真純、鈴木うらら（以上3年次）。

▲ ゼミ生がデザインしたワークショップが繰り広げられた

自分磨きセミナー

学生部と学生相談室が共催した自分磨きのための2つのセミナーが1月28日、神田と生田の両キャンパスで開講された。就職活動を控えた3年次生をはじめ、1、2年次生も参加し、好印象を与えるポイントを学んだ。

☆神田キャンパス「パーソナルカラーについて学ぼう！」

学生27人が講師の大貫いつきさん、堀川美紀さん（いずれもイメージコンサルタント）の指導を受けながら自分の個性を引き出すベストカラーを探った。学生たちは髪や瞳、肌の色など自分の持つ色を確認した後、さまざまな色の布をあて、自分に合う色をチェックした。シチュエーション別の配色テクニックなども紹介された。

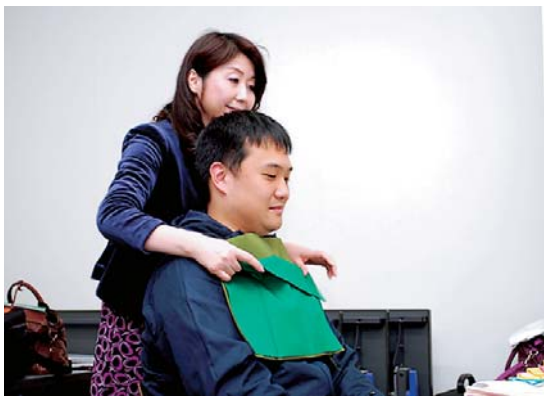
生田キャンパスから参加した留学生の王海辰さん（文1）は「今まで意識したことがなかった自分のカラーが理解できた。洋服を選ぶ時の参考になる」と笑顔で話した。

☆生田キャンパス「センスアップセミナー」

就職活動やインターンシップを想定し、慣れないスーツに身を包んだ23人が、客室乗務員訓練教官の経験もある大濱由紀さんから印象を良くする身のこなしを学んだ。

講座では髪形やメイクなどの身だしなみ、スーツの着こなし方、お辞儀の仕方、言葉遣いを意識した電話応対など、立ち居振る舞いを学んだ。

参加学生から「髪型などのアドバイスを受けて自信をもった」「就職活動を前に参加できてよかった。学んだことを今後に生かしたい」「講習で自分の言葉遣いの間違いに気づいた」「アルバイトの仕事中にも生かしたい」「初めて立ち居振る舞いを学ぶ機会となった」などの感想や要望が多数寄せられた。



▶ パーソナルカラーを探す

▶ 立ち居振る舞いを学ぶ